

令和 6 年度

市立旭川病院
業務・決算報告

～市立病院ってどんな病院なの？～

令和 7 年（2025 年）10 月

市立旭川病院

目 次

は じ め に	1
I 市立旭川病院はどんなところ？	2
1 どんな病院なの？	2
2 どんな特色があるの？	4
II 市立旭川病院の経営状況はどうなの？	5
1 令和6年度の決算は？	5
2 医療の提供による収支はどうだったの？	6
3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？	7
4 令和6年度は市立病院でどんなことがあったの？	8
5 経営状況の推移はどうなの？	9

市立病院のシンボルマーク



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています（患者さんやご家族）。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

はじめに

市立旭川病院は、診療科25科、病床数481床を有する公立の医療機関として、令和6年度では入院で延べ約9.6万人、外来で約20.8万人の患者を診療し、地域医療の提供に大きな役割を果たしています。

一方で、患者数はコロナ禍以前の状態に戻っておらず、原材料・燃料などの物価高騰に加え、労務単価の上昇などによる費用の増加により、病院経営にとって難しい状況となっています。

当院では令和6年10月より血管外科を開設し、高齢者人口の増加など地域の医療需要に対応した医療体制を整えてまいりましたほか、地域の医療機関との連携強化や新たな診療報酬の加算の取得、委託業務の見直しや医療用材料の適正使用など経営改善に向けた様々な取組を進めています。

当院の基本理念と基本方針の精神に則り、市民の皆様が安心して暮らすことができるよう職員が一丸となって努力を続けています。

この冊子は、令和6年度の決算内容を中心に作成しましたが、当院の経営状況のほか、当院の役割や取組なども合わせて、ご理解いただければ幸いです。

市立旭川病院の基本理念と基本方針

《基本理念》

患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院、診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共の役割を担いつつ、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。
- 6 職員が連携し信頼しあうチーム医療に努めます。

I 市立旭川病院はどんなところ？

1 どんな病院なの？

市立旭川病院は、昭和5年に旭川市立診療所として開設されて以来、道北一円の基幹病院の一つとして、旭川市民をはじめ広く道民の方々の身体の治療や心のケアのため、良質で安全な医療サービスを提供しています。特に当院は、循環器科・消化器領域をはじめとした各診療科において、高度先進医療を提供しております。

（１）地域がん診療連携拠点病院として

がん治療においては、消化器内科、血液内科、泌尿器科などで治療の三本柱である手術・化学療法・放射線治療を行っています。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術では、外科・泌尿器科で実績を重ね良好な成績をあげております。

血液内科では、全国でも限られた認定施設として造血幹細胞移植を行っており、地域の高度専門医療を担っております。

2023年に最新鋭の放射線治療装置「リニアック」を導入し、短時間で高精度な放射線治療を行っております。

当院では、多くのがん患者さんの診療に当たるとともに、地域のがん診療水準の向上に努めております。

（２）循環器診療について

循環器内科では、1971年に北海道では最初にCCUを設立し、24時間体制で緊急症例に対応してきました。

2005年に開設した循環器病センターでは、道内屈指の手術件数を誇る胸部外科とともに、循環器疾患の診断・治療・救急対応などを内科・外科の両面から総合的に行い、質の高い医療を提供しております。

（３）精神科について

精神科では、公立公的病院として市内で最も多くの患者さんを受け入れており、身体疾患を合併する場合には全診療科と連携して診療にあたっております。

（４）感染症指定医療機関として

当院は、感染症指定医療機関として、危険性が高い感染症の治療のほか、早期発見、拡散防止といった重要な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症の流行時には、状況に応じて一般診療の制限をしながら、多くの患者さんを受け入れてきました。



シャワー室を完備した感染症病棟の個室



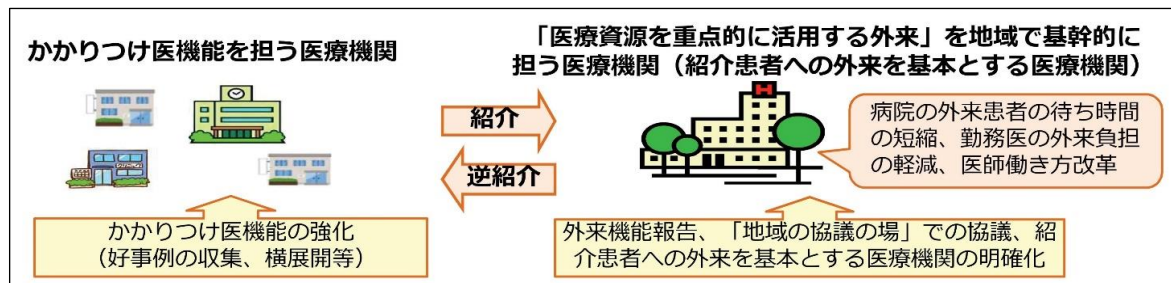
新型コロナウイルス患者への対応

（５）地域における医療連携体制について

地域でより良い医療を提供するためには、近隣の医療機関と役割を分担し協力し合うことが必要です。

当院は、地域全体の医療の質を向上させ、患者さんが必要な医療を迅速に受け入れられる体制を構築するため、令和5年8月1日に「紹介受診重点医療機関」として北海道から指定・公表されました。

今後も、地域の医療機関と連携し、限られた医療資源を最大限生かしながら、急性期病院として質の高い医療を安定的に提供することで、この地域における公立病院としての役割を果たしてまいります。



そのほか、民間の病院では実施が難しい不採算医療を担うなど、公立病院としての使命を果たしながら、市民から信頼される病院を目指しています。

2 どんな特色があるの？

感染症指定医療機関

道北で唯一の感染症病棟を保有

当院は、感染力や重篤性の観点から危険性が高いとされる第二種感染症患者を受け入れることができる感染症病棟を保有しています。

夜間急病センター

24時間365日、医療を提供

夜間急病センターを当院で運営することにより、夜間の一次救急を担い、いつでも医療を受けられる体制づくりに貢献しています。

精神科

市内の多くの身体合併症患者を受け

精神科病棟100床を有する総合病院として、身体の病状を抱えた精神疾患の患者さんに、精神科以外の診療科と連携して治療に当たっています。

小児一次救急

準夜間帯小児診療の負担軽減、利便性向上

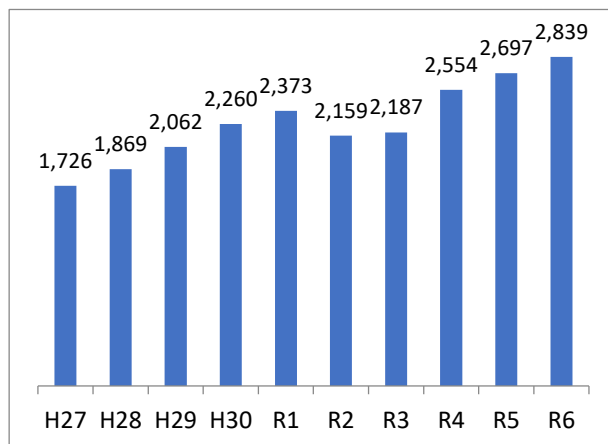
準夜間帯の小児診療は、市内の小児科医などが当院で診療を行うことで、地域の医療機関の負担を軽減するとともに、受診者の利便性を図っています。

2次救急

輪番5病院の一つとして救急車を受入れ

重症患者を休日・夜間を問わず24時間体制でケアするため、市内の5病院で当番制により診療を実施。当院は、その病院の一つとして役割を果たしています。

救急車搬入件数（件）



人員に限りがある中でも、救急車の搬入を可能な限り受け入れています。

Ⅱ 市立旭川病院の経営状況はどうか？

1 令和6年度の決算は？

当院では、主に医療の提供に係る収入と支出をまとめた「収益的収支」と、医療器械の購入や借入金などの投資に係る「資本的収支」に分けて収支状況を管理しています。

収益的収支では、物価高騰の影響などで、13億7,799万円の赤字となり、資本的収支も、借入金の返済などにより、5億9,087万円の赤字となりました。

収益的収支と資本的収支の合計である総収支に内部留保資金を加算した結果、年度末資金残高は7億693万円のマイナスとなっています。

【予算と決算】

		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B-A)
収益的収支	収入 入院収益など	136億3,906万円	120億9,782万円	△15億4,124万円
	支出 給与費・薬品費など	143億7,253万円	134億7,581万円	△8億9,672万円
	差引	△7億3,347万円	△13億7,799万円	
資本的収支	収入 借入金など	16億5,342万円	15億4,884万円	△1億458万円
	支出 医療器械の購入など	22億3,949万円	21億3,971万円	△9,978万円
	差引	△5億8,607万円	△5億9,087万円	

※予算額は、当初予算額・補正予算額の合計額です。

【年度末資金】

前年度末資金残高	当年度資金収支	当年度末資金残高
10億4,783万円	△17億5,476万円	△7億693万円

2 医療の提供による収支はどうだったの？

当院は、主に診療による収入により経営を行っていますが、公立病院の役割の一つである不採算医療については、その一部に旭川市からの負担金が充てられています。

費用については、主に医師・看護師・薬剤師等の人件費のほか、薬品などの購入費、建物や医療器械の維持管理費に支出しています。

医療の提供にかかわる収支決算（収益的収支）

【収入】

項 目	収入額	説 明
医業収益	99億6,105万円	入院や外来での医療行為に係る収入です。
負担金・補助金	10億3,430万円	不採算医療に関する負担金などです。
長期前受金戻入	9億3,844万円	減価償却費等に見合う補助金収入などです。
その他	1億6,403万円	駐車場の使用料などです。
収入合計	120億9,782万円	

【支出】

項 目	支出額	説 明
給与費	68億1,973万円	職員の人件費です。
材料費	32億8,392万円	診療に使用する薬品や診療材料などの購入費です。
経費	22億1,909万円	建物・医療器械の維持管理費や患者さんの給食や窓口業務の委託料などです。
減価償却費等	9億900万円	建物や医療器械などの使用に伴う資産価値減少分です。
研究研修費	5,008万円	医療の質を保つために必要な医師・看護師・薬剤師等の研修費などです。
支払利息	1,980万円	借入金の返済利子です。
その他	1億7,419万円	税務署に納める消費税などです。
支出合計	134億7,581万円	

3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？

当院は、日々進歩する医療技術に対応し、高度な医療ニーズに応えるため、医療器械の整備・更新を毎年度行っています。また、老朽化した施設の改修を計画的に実施することで、安全で安心な院内環境の確保に努めています。

令和6年度は、血管外科をはじめとするカテーテルを用いた診断・治療に必要な「血管造影X線診断装置」や、より安全で精密な手術を行うための「手術用顕微鏡」などを購入したほか、災害時の安全性を高めるため、老朽化した「防災設備」の改修工事などを行いました。



血管造影X線診断装置



手術用顕微鏡



防災設備

設備投資にかかわる収支決算（資本的収支）

【収入】

項 目	収入額	説 明
企業債	7億1,470万円	医療器械等を整備するための借入金です。
一般会計負担金	8億3,324万円	借入金返済等のための旭川市の負担金です。
返還金	90万円	奨学金の返還金です。
収入合計	15億4,884万円	

【支出】

項 目	支出額	説 明
建設改良費	7億5,467万円	
建物	4億645万円	建物の工事費です。
器械備品	3億4,822万円	医療器械の購入費です。
企業債償還金	13億7,454万円	借入金の返済元金です。
投資	1,050万円	看護師等奨学金の貸付金です。
支出合計	21億3,971万円	

※収入と支出の差額5億9,087万円については、過年度分損益勘定留保資金等で補っています。

4 令和6年度は市立病院で どんなことがあったの？

令和6年度は、10月1日より血管外科を新設し、動脈や静脈に対して、より専門的で安心できる診療体制を整えました。

また、「地域医療連携のつどい」を開催し、多くの地域医療関係者の方を招き、講演会及び情報交換会を行いました。

講演会では、血管外科の内田先生より「市立旭川病院に血管外科が新設されました」、泌尿器科の玉木先生より「最近の泌尿器科手術の進歩」という演題で講演をいたしました。

つどいを通し、地域医療関係者と連携を深めることで、患者さんが安心して受けられる地域医療体制の強化に努めました。



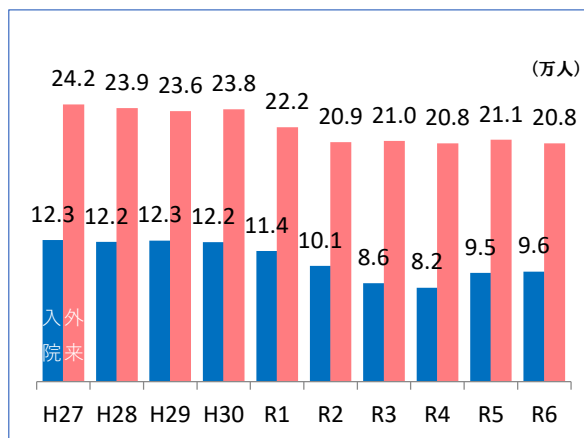
地域医療連携のつどいの様子



(左) 内田先生による講演の様子
(右) 玉木先生による講演の様子

5 経営状況の推移はどうか？

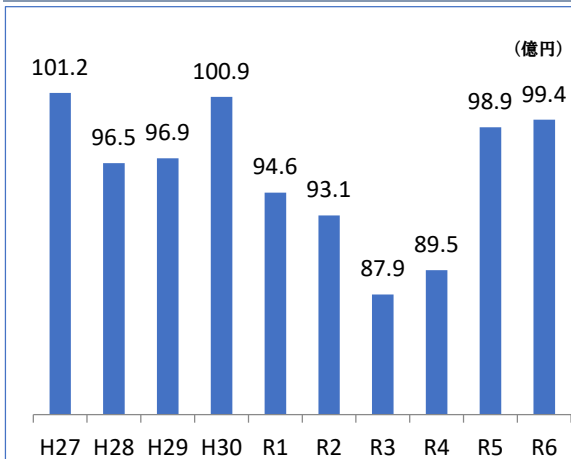
延べ患者数の推移



令和6年度は入院と外来を合わせて年間約30万人の患者さんの診療に当たりましたが、依然として患者数は新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻っておらず横ばい傾向にあります。

患者さんの減少に合わせて、コスト削減の努力をしていますが、厳しい経営状況が続いています。

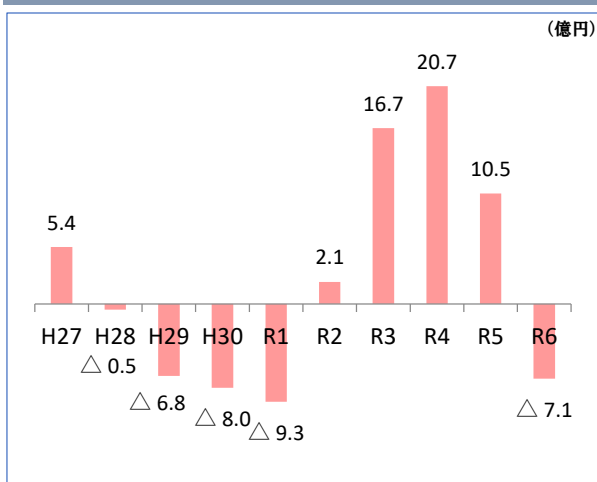
医業収益の推移



令和6年度は、血管外科の新設などにより、診療による収入は前年度からわずかではありましたが増加しました。

しかし、物価高騰や労務単価の上昇などにより医業費用も増加しており、地域に必要な医療を提供するためには、安定した運営が必要なため、健全な経営に向けて改善に努めています。

資金残高の推移



一般家庭でいう貯金額に当たる資金残高は、最近の厳しい経営状況から大きく減少し、令和6年度でマイナスとなりました。

資金残高がこれ以上悪化すると、自律的な経営に支障をきたすため、引き続き改善に努めます。

令和6年度 市立旭川病院
業 務 ・ 決 算 報 告
～市立病院ってどんな病院なの？～

発行：令和7年（2025年）10月

編集：市立旭川病院事務局経営管理課

070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

TEL：0166-24-3181 FAX：0166-27-8505

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/>